

事業推進

徳山下松港は、石油コンビナート、化学工業、機械製造業など活発な産業を支える工業流通港として、地域経済の発展に寄与しており、我が国の東南アジア戦力拠点となっている工場も多数立地しています。

本地区は、既存係留施設の不足(岸壁水深、岸壁数、背後スペース)及び大型船舶に対応した水深を有する係留施設がなく、高い物流コストを強いられている現状です。

近年の背後企業が企業間の連携を図ったこと等による生産性の向上、生産量の増加などに伴い、徳山下松港の取扱貨物量が増加しており、取扱貨物能力の限界に達している状況にあります。

本事業は、当該地域の物流効率化を図り、船舶の大型化に対応した航路整備を推進し、更に事業で発生する水底土砂を有効に活用します。



期待される整備効果

本事業により既存施設の岸壁水深、岸壁数及び背後スペースの不足により海洋及び船舶の大型化へ対応し、物流効率化が図られ、地域経済の国際競争力の維持・強化につながります。更に干潟造成により水産資源を含む生物の多様性が向上し、水底質環境の改善が図られます。

徳山下松港臨海部産業エリア

埠頭用地と背後の港湾関連用地を臨海部産業エリアに指定し、民間による一体的な埠頭運営を行なうことにより、バルク貨物を効率的に取り扱うことが可能となり、物流コストが削減が期待されます。

